商標の審査基準の策定方法について（案）

1．基本的な考え方

近年、わが国産業の国際競争力を強化し、経済の活性化を図るため、知的財産の保護の強化が益々重要となっている。ブランド（標識）に化体される営業上の信用を保護する商標制度においても、多様化するユーザーのニーズに的確に対応し、ブランド保護の強化と実効性の確保が求められている。

特に、このような情勢の中では、商標を巡る紛争や、商標権を取得しても訴訟で覆る可能性等の商標の保護の不確実性は、営業上の信用にかかわるビジネス上の大きな弊害となりかねないため、一層、安定した商標権の付与が重要となってきた。

このような商標権の安定性に対する要請に応えるためには、審査の質の向上を図るとともに、透明で予見性の高い審査であることが不可欠であり、そのためには、審査上の指針となる商標の審査基準について、一層の的確性と予見性の向上を図るとともに、同時に、審査基準の策定方法の透明化を図る枠組みを整備する必要がある。

2．審査基準の策定方法の方向性

（1）策定方法の透明化

商標の審査基準に関しては、従来、関係団体との意見交換やパブリックコメントを経て策定してきた。しかし、商標法は、商標の使用者ばかりでなく、需要者の利益の保護をも目的とするものであることを踏まえると、策定方法の透明性を高めるためには、より広範な観点からの検討が必要となる。

そこで、商標の審査基準の策定については、パブリックコメント（必要に応じ日英両言語）を求めるとともに、今後、法学者、法曹関係者、産業界、代理人たる弁理士など様々な委員によって構成される商標制度小委員会に諮ることとする。そのため、商標法の改正のほか、商標の審査基準の策定のための商標制度小委員会も、適宜、開催していくこととする。

（2）審査基準等の視覚化・構造化の推進（ハイパーテキスト化）

商標の審査基準については、従来より公表してきたところではあるが、商標の使用者、出願人、代理人、消費者、法曹関係者等にとって一層理解しやすいものとするため、単に審査基準の公表にとどまらず、商標法の条文、審査基準の各項目ごとに関連づけた審判決や審査事例等について体系的に整理し、公表すべく、今後、審査基準等の視覚化・構造化の推進（ハイパーテキスト化）を検討する。これにより、審査官ばかりでなく、出願人等も、単に審査基準を調査するだけでなく、関連する審判決や審査事例へのアクセスが容易となることから、審査の的確性と予見性の向上が期待できると考えられ

る。

3. 当面想定している審査基準の策定

当面想定している審査基準の策定は、以下の2点である。

そのうち、については、商標制度小委員会に諮るとともに、速やかにパブリックコメントを求めることとしたい。また、についても、資料6-2にあるスケジュールを踏まえ、来年度には見直しの方向性について、商標制度小委員会に諮るとともに、パブリックコメントを求めることとしたい。

歴史上の人物名等の商標審査基準の策定

「類似商品・役務審査基準」の見直し